



2022年4月11日放送

「第45回日本小児皮膚科学会 ④ シンポジウム4

小児科医と皮膚科医が知っておきたい学校保健の皮膚科的課題」

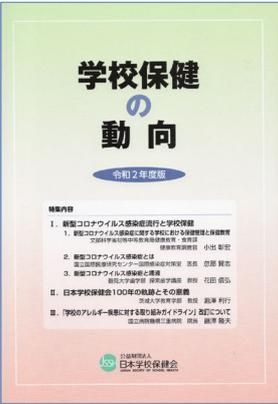
島田ひふ科
院長 島田 辰彦

はじめに

文部科学省設置法要綱に、「学校保健とは、学校における健康教育と健康管理をいう」とあります。皮膚科的に言えば「保健教育」が、皮膚と皮膚疾患治療についての正しい知識の普及、「保健管理」は、皮膚疾患の早期発見と適切な治療へと繋げる活動と言えます。社会や生活環境が急激に変化する中、子どもの健康課題は複雑、多様化してきました。今回は、2020年11月発行された「学校保健の動向:令和2年度版」(日本学校保健会)に記載した中から3つの皮膚科的課題を取り上げ、その解決策をお話します。

学校保健の皮膚科的課題

- ✓ アトピー性皮膚炎
- ✓ 足育
- ✓ おしゃれ障害
- ✓ 外傷や熱傷の救急措置
- ✓ 学校感染症
- ✓ にびき
- ✓ 太陽紫外線防御対策
- ✓ 新しい生活様式のための皮膚トラブル



皮膚科的課題

1. アトピー性皮膚炎

皮膚科医が検診を長年行っている群馬県前橋市の令和元年度の小学1年生(パイロット14校)と中学1年生(市立全校)のアトピー性皮膚炎の有病率は、それぞれ10.8%、6.1%であり、広島市安佐北区、安佐南区の3つの小学校1年生、6年生を対象に行った結果も1年生が9.0%、6年生が15.2%と決して少なくありません。しかし、同年度の文部科学省の学校保健統計(学校保健統計調査報告書)を見ると、内科健診でアトピー性皮膚

炎を指摘されたのは小学生 3.3%、中学生 2.9%と明らかに少なく、現行の内科健診ではアトピー性皮膚炎に罹患した多くの児童生徒が見逃されています。

これは「保健管理」としては問題であり、解決が必要です。平成 27 年度に改訂された児童生徒等の健康診断マニュアル¹⁾にある健康調査票の 7 つの皮膚科項目の中に、アトピー性皮膚炎を想定する項目として「肌がかゆくなりやすい」、「肌があれやすい、かぶれやすい」という 2 つの設問を用意してあるので、活用が広まって内科健診での見逃しが少しでも減ることを願っています。

項目		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2
内科	1 最近の健康状態（生活習慣について、次の半数以上はまるものがある場合は、考慮してください）								
	2 疲労感、食欲不振、体重減少								
	3 下痢、便秘、嘔吐								
	4 腹痛、めまい、眩暈								
	5 頭痛、めまい、眩暈								
	6 急にふらつきやめまいをすることがある								
	7 頻りに嘔吐することがある								
	8 異常な発汗をすることがある								
	9 異常な多汗、多汗症								
	10 手足のしびれ、こむら返り								
皮膚科	11 全身に皮膚のかぶれや湿疹がある								
	12 顔や手足に皮膚のかぶれや湿疹がある								
	13 皮膚のかぶれや湿疹がある								
	14 皮膚のかぶれや湿疹がある								
	15 皮膚のかぶれや湿疹がある								
	16 皮膚のかぶれや湿疹がある								
	17 皮膚のかぶれや湿疹がある								
	18 皮膚のかぶれや湿疹がある								
	19 皮膚のかぶれや湿疹がある								
	20 皮膚のかぶれや湿疹がある								
耳鼻科	21 鼻水、鼻づまり、鼻血								
	22 耳鳴り、耳の痛み								
	23 耳の聞こえが悪い								
	24 目の痛み、目やに								
	25 目の充血、目やに								
	26 目の痛み、目やに								
	27 目の痛み、目やに								
	28 目の痛み、目やに								
	29 目の痛み、目やに								
	30 目の痛み、目やに								
眼科	31 目の痛み、目やに								
	32 目の痛み、目やに								
	33 目の痛み、目やに								
	34 目の痛み、目やに								
	35 目の痛み、目やに								
	36 目の痛み、目やに								
	37 目の痛み、目やに								
	38 目の痛み、目やに								
	39 目の痛み、目やに								
	40 目の痛み、目やに								
歯科	41 歯の痛み、歯の揺れ								
	42 歯の痛み、歯の揺れ								
	43 歯の痛み、歯の揺れ								
	44 歯の痛み、歯の揺れ								
	45 歯の痛み、歯の揺れ								
	46 歯の痛み、歯の揺れ								
	47 歯の痛み、歯の揺れ								
	48 歯の痛み、歯の揺れ								
	49 歯の痛み、歯の揺れ								
	50 歯の痛み、歯の揺れ								
整形外科	51 手足のしびれ、こむら返り								
	52 手足のしびれ、こむら返り								
	53 手足のしびれ、こむら返り								
	54 手足のしびれ、こむら返り								
	55 手足のしびれ、こむら返り								
	56 手足のしびれ、こむら返り								
	57 手足のしびれ、こむら返り								
	58 手足のしびれ、こむら返り								
	59 手足のしびれ、こむら返り								
	60 手足のしびれ、こむら返り								

<皮膚科項目>

- ・肌がかゆくなりやすい
- ・肌があれやすい、かぶれやすい
- ・うみやすい、にきびがでやすい
- ・体や手足にブツブツが出来る
- ・髪の毛に異常がある（頭シラミ、脱毛症等）
- ・生まれつきのあざ、皮膚病がある
- ・その他、気になる皮膚病がある

児童生徒等の健康診断マニュアル 平成27年度改訂より抜粋

2. ニキビ

2018 年に日本臨床皮膚科医会学校保健委員会が中心となって小学校 6 年生から大学生までの 800 人を対象に行った疫学調査²⁾では、①平均発症年で最も多いのが男性は 13 歳、女性 12 歳、②有病率が最も多いのは中学校 3 年生で 87.3%、③ニキビ罹患経験者（現在皮疹のある人+現在はないが以前はあった人）は大学生 95.8% でした。ニキビは、思春期とともに始まり 20 歳になるまでに 9 割以上が一度は罹患する、痕を残すこともある毛包脂腺系の慢性炎症性疾患と言えます。思春期は、身体が大きく変化するため、心も不安定になりやすく、ニキビに対する正しい知識を持たずに罹患した子ども達の不安や悩みは、我々の想像以上に大きいです。

彼らを救うためには、「保健教育」が大切です。コロナ禍前であれば、出張授業のような形式で学校現場に出向いて子ども達にニキビとその治療に関する正しい知識を伝えたり、養護教諭の研修会などで講演したり

思春期の肌トラブル・ニキビ
情報サイト

HOME / アーカイブ2020年

バックナンバー 2020年度

2020年 11月15日

思春期の肌トラブル研修会
『皮膚科医が教える思春期の肌の健康』
主催：公益財団法人日本学校保健会 共催：マルホ株式会社

2020年11月に「思春期の皮膚トラブル研修会」をオンラインで開催いたしました。このセミナーについて、オンデマンド配信をいたします。是非、ご視聴いただき、児童・生徒への指導にお役立ていただけますと幸いです。

●開催日時：2020年11月15日 13:00～14:30
●対象：小・中・高等学校の養護教諭

学校に必要な皮膚トラブルの知識
SPFと紫外線が肌の健康に与える影響

紫外線予防率 = (1 - 1/SPF) %

共有

講演 1

学校に必要な皮膚トラブルの知識
(講師)
日本臨床皮膚科医会 学校保健委員会 委員長
島田ひふ科 院長
島田辰彦先生

https://www.nikibi-hoken.jp/archives/bn_2020.html

できましたが、コロナ禍で難しくなりました。2020年11月15日に日本学校保健会主催（後援：日本臨床皮膚科医会、協賛：マルホ株式会社）で「思春期の皮膚トラブル研修会～皮膚科医が教える思春期の肌の健康～」をウェブ配信形式で開催し、全国から323人の養護教諭の参加がありました。コロナ禍における健康教育の一つの方法として、ウェブ配信での講演会は活用してゆくべき方法と思われます。なお、アーカイブは現在も配信中です。

3. 新型コロナウイルス感染症を想定した新しい生活様式を実践して生じる皮膚科的課題

文部科学省は、学校における感染及びそのリスクを可能な限り低減して学校運営を行うために「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル－学校の新しい生活様式－」（以下学校の新しい生活様式³⁾）を出しています。その中で感染経路を断つための方法として、①手洗い、②咳エチケット（マスクを着用）、③清掃・消毒をあげていますが、これらを実践して新たな皮膚科的課題が生じています。

(1) 手荒れ

学校の新しい生活様式には、「手についた100万個のウイルスは流水で15秒すぐと100分の1に、石鹸やハンドソープで10秒もみ洗い後15秒すぐと1万分の1に、それを2回繰り返すと100万分の1になる」、「丁寧な手洗いを行うことで十分にウイルスを除去できるので、さらに重ねてアルコール消毒をする必要はない」、「石けんやアルコール消毒薬に過敏に反応したり手荒れの心配がある場合は、流水でしっかり洗うなどの配慮を行う」と載っていますが、手洗い後にアルコール消毒までして手荒れやアカギレを発症していることがあります。また、手洗い後の正しい拭き取りについての情報提供があまりないので、濡れたハンカチやタオルで雑に水分を拭き取って水分が皮膚に残存しても平気です。

手荒れ予防のためには、乾いたハンカチやタオル等で丁寧に指間や指のシワの水分も押し当てるようにしっかり拭き取ること、失われた保湿成分を補うために薄い皮膜を作るくらいの気持ちでたっぷりした量の保湿剤をシワに沿ってゆっくりと塗り広げることが大切です。

(2) マスクによる肌トラブル（刺激性皮膚炎）

マスク着用時のマスク内は呼気の熱と水蒸気で高温多湿状態となり、顎や口囲にニキビも発症しますし、皮膚炎も生じます。これは、マスク内の水分が過剰になり、モイスチャーバランスが崩れた状態となるためです。過剰な水分を含んだ角質細胞はふやけて剥がれやすく、マスクとの摩擦刺激で炎症や痒みが誘発されます。

予防のためには、マスク着用で増える水分を想定して、着用前にたっぷりとした量で保湿してモイスチャーバランスを保つことや、不必要な時にはこまめにマスクを外してマスク内の湿潤状態を改善することが大切です。

皮膚科の学校保健活動

皮膚科的課題の解決には、皮膚科医が学校保健活動へ参画することが重要です。

1993年、日本臨床皮膚科医会が学校保健推進委員会（現学校保健委員会）を設置したのが、皮膚科医による組織的な学校保健活動への取り組みの始まりです。その後、各都道府県支部に学校保健担当者を配置し皮膚科の学校保健活動をリードしてきました。現在では、日本小児皮膚科学会の学校保健委員会、日本皮膚科学会の学校保健ワーキンググループと連携して、日本医師会、日本学校保健会の委員会にも委員を派遣して、皮膚科的課題解決のために様々な活動を行っています。

具体的な実績としては、文部科学省が指針を出していなかった太陽紫外線防御対策や学校感染症（第三種その他）の取り扱いについて指針となるような統一見解を発表しましたし、学校現場に向いて保健教育を行う際に活用する教育用教材も作成・配布してきました。

学校保健活動では、都道府県教育委員会に対応して提言をする医療団体は都道府県医師会、市区町村教育委員会に対しては郡市区医師会です。学校現場へ働きかけるためには、地域医師会の学校保健関連委員会で活動できるようにすることも大切です。

また、学校現場における保健活動の中心となる養護教諭への働きかけも行いましたが、2020年からのコロナ禍で活動は停滞しています。コロナ禍が1日でも早く収束し、地域単位で養護教諭をはじめとする学校現場と皮膚科医の協力体制が整い、子どもの皮膚科的課題が解決し、明るく健康的な学校生活とその先の人生が開けるようになることを切に願っています。

参考文献

- 1) 児童生徒等の健康診断マニュアル 平成27年度改訂（日本学校保健会）, 14-17.
- 2) 谷崎英昭, 林伸和, 大川司 他: 本邦における尋常性痤瘡のアンケートによる疫学的調査成績 2018, 日皮会誌 130(8), 1811-1819, 2020.
- 3) 学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル「学校の新しい生活様式」(2021.4.28 Ver.6) : https://www.mext.go.jp/content/20210514-mxt_kouhou01-000007426_1.pdf

